

2021年3月4日

住友生命保険相互会社

スミセイ「わが家の防災」アンケート 2021

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 橋本 雅博）は、ご家庭の防災対策の実態や意識を把握するアンケートを実施しました。

当アンケートは、毎年様々な地震や風水害等が発生する日本において、人々の防災に対する意識の変化や備えの状況について 2016 年から調査しており、今回で6回目を迎えます。

2020 年も「令和2年7月豪雨」が九州や中部地方に甚大な被害をもたらし、地震・台風・大雪等が人々の命・暮らしを襲いました。

被災された皆さまにはあらためまして謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興とご健康を、心からお祈り申し上げます。

◆調査結果の概要

○最も備えが必要だと思う災害（3ページ参照）

「地震」76.1%が6年連続1位で、2位は「台風」9.3%、3位は「大雨・洪水」7.0%となりました。

○家庭の防災対策（4～11ページ参照）

家庭の防災対策の平均点は「37.4点」と低く、地域別では、「令和2年7月豪雨」で広範囲に被災した九州が、前年比9.6点増となりました。

この一年間で新たな防災対策に取り組んだ人は60.3%で、内容については「非常用飲料水の備蓄」、「非常用食品の備蓄」、「非常用持ち出し袋の準備」が多く挙げられています。また、年間の防災対策費の平均は「3,837円」で、「0円」という回答は49.6%を占めました。

この一年間の防災意識・対策での変化については、「特になし」が前年比7.8ポイント増の58.3%で1位となりました。

○感染症リスクの有無における、人々が選択する避難場所の違い（12ページ参照）

自宅の場所が危険だとしても、避難場所に感染症への感染リスクがある場合には、「市町村指定の避難場所・避難所」を選択する人は33.6%のみで、感染リスクがない場合と比べて15.6ポイントのマイナスとなりました。

○自宅の災害危険度の把握状況（13ページ参照）

「把握している」はわずか20.5%で、特に20代が9.0%、30代が15.5%と顕著に低くなっています。自宅の災害危険度の平均は52.0%で、北海道は61.5%、東北は60.0%と高い数値となりました。

1. 調査概要

- a. 調査期間 : 2020年12月14日～12月16日
- b. 調査方法 : インターネット応募による選択方式および自由記入方式
- c. 調査対象 : 1,000人(全国の男女各500人)

調査対象者の内訳(人)

	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	全体
北海道地方	29	28	12	8	13	8	16	57
東北地方	28	37	15	16	13	10	11	65
関東地方	229	196	96	87	66	84	92	425
中部地方	68	65	25	24	32	29	23	133
近畿地方	80	115	31	43	38	39	44	195
中国・四国地方	28	33	8	15	19	14	5	61
九州地方	38	26	13	7	19	16	9	64
合計	500	500	200	200	200	200	200	1000

- 北海道地方 : 北海道
- 東北地方 : 青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県
- 関東地方 : 茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県
- 中部地方 : 新潟県・富山県・石川県・福井県・山梨県・長野県・岐阜県・静岡県・愛知県
- 近畿地方 : 三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県
- 中国・四国地方 : 鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県
- 九州地方 : 福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県

2. 調査結果

a. 最も備えが必要だと思う災害

6年連続で1位になったのは「地震」76.1%で、以下「台風」9.3%、「大雨・洪水」7.0%が続きました。「令和2年7月豪雨」による「大雨・洪水」の大幅な上昇は見られませんが、これは、前年にも「令和元年東日本台風」により甚大な豪雨被害があったためと思われます。

なお、2020年12月の大雪による発災は調査実施後に生じたため、「大雪・雪崩」への影響はありませんでした。北海道は、前年度調査実施前に見舞われた猛吹雪が数値を急上昇させていましたが、今回は例年程度に戻っています。

◆あなたにとって最も備えが必要だと思う災害は何ですか。

(数字は%、○内数字は順位)

位	2021 調査	全体	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・ 四国	九州
1	地震	76.1	70.2①	72.3①	82.6①	78.2①	73.8①	60.7①	59.4①
2	台風	9.3	1.8	3.1	7.5②	6.8②	13.8②	14.8②	20.3②
3	大雨・洪水	7.0	5.3③	12.3②	6.1③	5.3③	5.6③	11.5③	12.5③
4	津波	2.3	5.3③	3.1	1.2	2.3	2.6	3.3	4.7
5	土砂災害	1.5	3.5	4.6③	0.5	0.8	1.0	8.2	0.0
6	噴火	1.4	7.0②	0.0	0.9	3.0	0.5	0.0	1.6
7	大雪・雪崩	1.2	5.3③	4.6③	0.2	3.0	0.5	0.0	0.0
8	竜巻	0.6	0.0	0.0	0.7	0.0	1.0	0.0	1.6
9	その他	0.4	0.0	0.0	0.2	0.8	1.0	0.0	0.0
10	落雷	0.2	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0

【前年度調査】

(数字は%、○内数字は順位)

位	2020 調査	全体	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・ 四国	九州
1	地震	73.6	70.5①	55.9①	80.1①	76.0①	75.3①	59.3①	60.8①
2	台風	11.9	2.3	8.5	10.9②	9.3②	13.2②	16.0②	23.0②
3	大雨・洪水	6.6	9.1③	10.2③	5.0③	8.0③	3.7	12.3③	9.5③
4	津波	3.9	6.8	15.3②	1.0	2.0	6.8③	6.2	2.7
5	大雪・雪崩	1.4	11.4②	5.1	0.5	2.0	0.5	0.0	0.0
6	土砂災害	0.8	0.0	0.0	0.7	0.7	0.5	2.5	1.4
	落雷		0.0	1.7	0.7	1.3	0.0	2.5	0.0
8	噴火	0.4	0.0	1.7	0.2	0.7	0.0	0.0	1.4
	その他		0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	1.2	0.0
10	竜巻	0.2	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4

b. 家庭の防災対策

(1) 家庭の防災対策の評価

家庭の防災対策の平均点は、前年から微増するものの、「37.4点」と依然低いままです。40点超えは60代のみですが、例年35点程度の40代が「39.4点」、30点程度の20代が「36.0点」と健闘しています。

地域別のトップは北海道です。2018年に発災した「北海道胆振東部地震」をきっかけに点数と順位が上がり、今年最高得点となりました。また、「令和2年7月豪雨」において広範囲に被災した九州が、前年比9.6点増となり、順位も7位から3位に上昇しました。

◆ご家庭の防災対策に点数をつけるとすれば、100点満点中何点ですか。

【全体・男女別】

(数字は%、○内数字は順位)

	今回	前年	前々年
全体	37.4	35.6	34.6
男性	39.8	36.2	35.8
女性	34.9	35.0	33.5

【年代別】

位	年代	今回	前年	前々年
1	60代	<u>40.4</u>	39.5①	44.7①
2	40代	<u>39.4</u>	<u>35.1</u> ③	<u>34.7</u> ③
3	50代	38.1	38.2②	35.9②
4	20代	<u>36.0</u>	<u>31.6</u> ⑤	<u>29.2</u> ④
5	30代	32.8	33.7④	28.7⑤

【地域別】

位	地域	今回	前年	前々年
1	北海道	<u>41.8</u>	35.0④	37.5②
2	関東	39.9	37.3②	34.6⑤
3	九州	<u>39.6</u>	<u>30.0</u> ⑦	29.3⑥
4	近畿	36.2	36.8③	36.5③
5	中国・四国	34.3	30.8⑥	27.6⑦
6	東北	32.2	40.0①	37.6①
7	中部	31.8	33.4⑤	35.5④

(2) この一年間で、新たに実施した家庭の防災対策

新たな防災対策に取り組んでいる人は、「特になし」を除く 60.3%に留まりました。
2位は「非常用飲料水の備蓄」、3位は「非常用食品の備蓄」が続き、以下9位まで前年同様のランキングとなりました。

「ハザードマップ（被害予測地図）の確認」は前年に上昇し、今回も微増となりました。「令和元年東日本台風」による甚大な浸水被害が影響していると思われます。

◆この一年間で、ご家庭の防災対策で新たに実施したことは何ですか。（複数回答）

（数字は%、○内数字は順位）

位		今回	前年
1	特になし	39.7	39.9①
2	非常用飲料水の備蓄	30.3	29.3②
3	非常用食品の備蓄	27.6	25.2③
4	非常用持ち出し袋の準備	23.3	20.3④
5	ハザードマップ（被害予測地図）の確認	19.0	18.4⑤
6	寝室に懐中電灯やスリッパ等を用意	16.4	16.9⑥
7	避難場所・経路の確認	13.2	13.1
8	家具などの転倒・落下防止策	12.4	11.5
9	家族間での連絡方法の確認	10.0	9.7
10	自治体や勤務先の防災情報メールに登録	6.9	5.6
11	防災冊子の入手・購入	5.0	4.8
12	家屋の耐震化	4.8	5.8
13	防災訓練の実施・参加	4.0	4.8
14	その他	0.1	0.8

(3) 一年以上前から実施している家庭の防災対策

一年以上前から防災対策に取り組んでいる人は、「特になし」を除く 51.2%に留まりました。ランキングについては、前年から大きな傾向の変化は見られませんでした。

◆一年以上前から、ご家庭の防災対策で実施していることは何ですか。(複数回答)

(数字は%、○内数字は順位)

位		今回	前年
1	特になし	48.8	48.8①
2	非常用飲料水の備蓄	12.8	12.7③
3	非常用食品の備蓄	12.0	12.5④
4	家具などの転倒・落下防止策	11.3	13.6②
5	非常用持ち出し袋の準備	11.0	10.7⑥
6	寝室に懐中電灯やスリッパ等を用意	10.1	11.8⑤
7	避難場所・経路の確認	9.4	9.8
8	家族間での連絡方法の確認	8.4	8.6
9	ハザードマップ(被害予測地図)の確認	7.7	5.8
10	自治体や勤務先の防災情報メールに登録	5.1	4.7
11	防災訓練の実施・参加	4.9	4.2
12	防災冊子の入手・購入	4.8	4.5
13	家屋の耐震化	4.1	4.4
14	その他	0.6	0.6

(4) この一年間の防災対策費

全体平均は前年から微増し、「3,837 円」になりました。過去2年とは異なり、女性より男性の方が1,402円も高い支出になっています。

地域別の最高は、「4,713 円」の関東です。北海道は、「北海道胆振東部地震」のあった2年前の調査から6千円以上の支出でしたが、今回は「3,547 円」と激減し、「令和2年7月豪雨」で被災した中部、九州は、前年から大幅増となりました。

「0円」回答は49.6%と高く、20代・30代・40代の過半数を占めました。

◆この一年間で、防災対策にいくら支出しましたか。

※今年度は「100万円」という高額回答が2件含まれたところ、過去の調査結果における考察内容との連続性を考慮し、当該2件を除いて平均値を算出しております。

【平均金額：全体・男女別】 (円)

	今回	前年	前々年
全体	3,837	3,718	4,054
男性	4,540	3,530	3,851
女性	3,138	3,905	4,257

【平均金額：地域別】 (数字は円、○内数字は順位)

位	地域	今回	前年	前々年
1	関東	4,713	4,541②	4,128③
2	中部	3,758	2,803④	3,502⑤
3	北海道	3,547	6,236①	7,680①
4	九州	3,336	1,822⑦	2,545⑥
5	近畿	3,215	3,984③	4,640②
6	中国・四国	2,717	2,154⑥	2,130⑦
7	東北	1,931	2,222⑤	3,594④

【「0円」回答の割合：全体・男女別・年代別】

(%)

	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代
今回	49.6	49.4	49.8	55.0	51.0	51.0	45.5	45.5
前年	48.6	52.2	45.0	55.5	54.5	46.0	51.5	35.5
前々年	51.7	56.2	47.2	59.0	58.5	50.5	49.5	41.0

(5) 今後、実施しなくてはならないと思う防災対策

1～3位は「非常用持ち出し袋の準備」42.7%、「非常用食品の備蓄」40.6%、「非常用飲料水の備蓄」40.1%となり、いずれも前年より微増の4割超となりました。

年代別で見ると、他年代より数値が高かったのは20代・30代の「特になし」（全体8位）で、若い世代の関心の低さが表れています。一方、40代は「特になし」が前年比7.5ポイント減（前年25.5%）、「ハザードマップ（被害予測地図）の確認」（全体9位）が7.5ポイント増（前年18.5%）となっており、防災への意識・行動に改善が見られます。また、40代と50代は、家族と異なる場所で被災することを想定したのか、「家族間での連絡方法の確認」（全体5位）がいずれも3割超の30.5%となりました。

◆今後、あなたのご家庭で実施しなくてはならないと思う防災対策は何ですか。

現在対策済みのもも含めて回答してください。（複数回答）

（数字は%、○内数字は順位）

位		全体	20代	30代	40代	50代	60代	前年 全体
1	非常用持ち出し袋の準備	<u>42.7</u>	37.0③	43.0①	44.5①	47.0①	42.0①	37.8③
2	非常用食品の備蓄	<u>40.6</u>	39.0②	40.0②	42.5②	39.5③	42.0①	39.2①
3	非常用飲料水の備蓄	<u>40.1</u>	40.0①	40.0②	42.5②	41.0②	37.0③	
4	家具などの転倒・落下防止策	27.6	24.5⑤	24.0⑤	30.5④	28.5⑤	30.5④	26.5④
5	家族間での連絡方法の確認	26.1	19.5	22.0	<u>30.5④</u>	<u>30.5④</u>	28.0⑤	25.6⑤
6	寝室に懐中電灯やスリッパ等を用意	25.6	23.0⑥	23.5⑥	29.0⑥	26.5⑥	26.0⑥	23.8⑥
7	避難場所・経路の確認	22.6	19.5	22.0	27.5	21.5	22.5	20.8
8	特になし	21.1	<u>27.5④</u>	<u>26.0④</u>	<u>18.0</u>	15.0	19.0	21.0
9	ハザードマップ（被害予測地図）の確認	17.8	14.5	12.0	<u>26.0</u>	18.0	18.5	18.5
10	家屋の耐震化	15.4	17.0	13.0	13.0	12.5	21.5	15.6
11	自治体や勤務先の防災情報メールに登録	12.0	9.5	11.0	13.0	12.0	14.5	12.2
12	防災訓練の実施・参加	9.3	9.0	9.5	9.5	9.0	9.5	10.6
13	防災冊子の入手・購入	7.7	7.5	5.5	9.5	6.5	9.5	8.2

※「その他」：全体0.4%、30代・40代0.5%、50代1.0%、左記以外の年代は0.0%

(6) 防災対策未実施の理由

防災対策を実施していない人は 28.5%で、その理由については「特になし」という無関心な回答が 34.0%を占め、東北と近畿で高くなりました。また、対策未実施者が比較的多い中国・四国と九州では、「面倒」と「やっても無駄」が他エリアより高くなりました。一方、関東と近畿は対策未実施が比較的少なく、「やっても無駄」も低い結果になりました。

◆この一年間または、それ以前から防災対策を実施していない理由は何ですか。(複数回答)

※現在、実施している防災対策が「特になし」との回答者(285人)対象

(数字は%、○内数字は順位)

		全体	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州
位	人	285	16	20	110	42	49	23	25
	%	<u>28.5</u>	28.1	30.8	<u>25.9</u>	31.6	<u>25.1</u>	<u>37.7</u>	<u>39.1</u>
1	特になし	<u>34.0</u>	37.5②	<u>40.0①</u>	35.5①	23.8③	<u>42.9①</u>	21.7	32.0①
2	つい先延ばしにしてしまう	33.0	<u>43.8①</u>	25.0②	32.7②	<u>45.2①</u>	28.6②	<u>30.4①</u>	24.0③
3	何をしたらよいか分からない	28.1	18.8③	25.0②	29.1③	33.3②	28.6②	<u>30.4①</u>	20.0
4	面倒	18.2	6.3	15.0	17.3	21.4	16.3	<u>21.7</u>	<u>28.0②</u>
5	お金がかかる	15.1	12.5	15.0	13.6	21.4	8.2	<u>26.1③</u>	16.0
6	やっても無駄	4.6	6.3	5.0	<u>3.6</u>	7.1	<u>0.0</u>	<u>8.7</u>	<u>8.0</u>

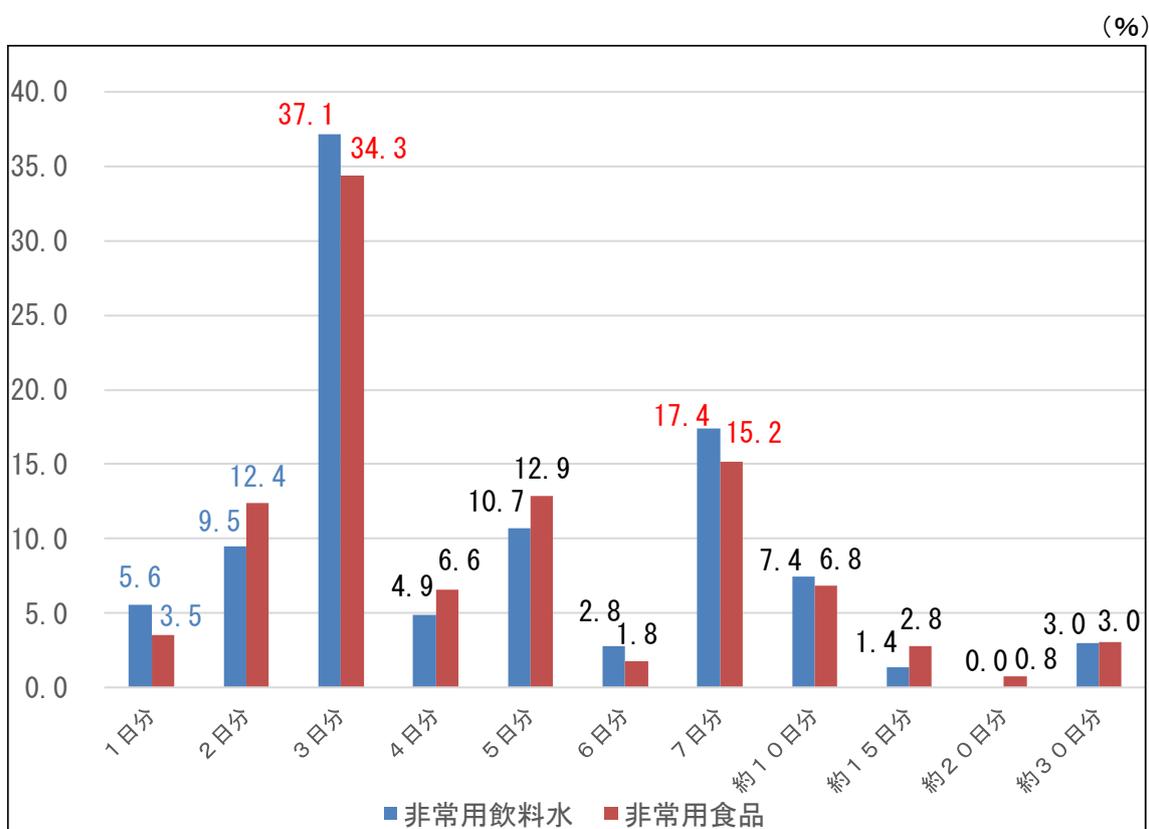
※「その他」: 全体 1.8%、関東 1.8%、中部 2.4%、中国・四国 4.3%、九州 4.0%、
上記以外の地域は 0.0%

(7) 非常用飲料水および非常用食品の備蓄量

非常用飲料水（対象者：431人）および非常用食品（対象者：396人）の備蓄については、「3日分」、「7日分」を用意している人が多い結果となりました。これは、国や地方公共団体等が推奨する“最低3日分、大規模災害に備えてできれば1週間分”に倣った結果になっています。その基準に満たない「2日分」以下の回答は15%台（非常用飲料水15.1%、非常用食品15.9%）でした。万ーのために、防災備蓄は多く備えておきたいものです。

◆ご家庭で、何日分の非常用飲料水および食品を備蓄していますか。

※防災対策として「非常用飲料水の備蓄」「非常用食品の備蓄」を行っている回答者が対象



※「それ以上」：非常用飲料水0.2%、非常用食品0.0%

(8) この一年間の防災意識や防災対策の変化

「特になし」が前年比7.8ポイント増となり、58.3%で1位となりました。また、前年から順位は変わらないものの、2位の「防災対策への関心度」は4.6ポイント、3位の「節電や省エネへの取組み」は1.9ポイント減となりました。

◆この一年間で、あなたの防災意識・対策で変化したものは何ですか。(複数回答)

(数字は%、○内数字は順位)

位		全体	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州	前年全体
1	特になし	58.3	56.1①	58.5①	59.8①	56.4①	59.5①	57.4①	51.6①	50.5①
2	防災対策への関心度	24.6	31.6②	12.3②	26.1②	21.1②	24.1②	26.2②	28.1②	29.2②
3	節電や省エネへの取組み	12.8	10.5③	12.3②	12.5③	15.8③	11.8③	11.5③	15.6③	14.7③
4	家族とのコミュニケーションをふやす	10.1	10.5③	12.3②	10.1④	9.8④	9.2④	8.2④	12.5④	9.4④
5	外出先等での避難経路の確認	6.5	10.5③	12.3②	6.6⑤	5.3⑤	4.1⑥	8.2④	4.7⑥	7.7⑤
6	自治会など地域のコミュニティに参加	5.0	8.8⑥	6.2⑥	4.2⑥	4.5	5.6⑤	4.9	4.7⑥	5.1
7	避難訓練などへの積極的な参加	4.5	5.3	3.1	4.2⑥	5.3⑤	3.6	6.6⑥	6.3⑤	5.5⑥
8	ボランティア活動への参加	2.5	1.8	6.2⑥	1.9	2.3	2.6	1.6	4.7⑥	4.0
9	寄付・寄付付き商品の購入	2.2	1.8	6.2⑥	2.6	1.5	0.0	4.9	1.6	

※「その他」: 全体 0.3%、中部 1.5%、九州 1.6%、左記以外の地域は 0.0%

c. 感染症リスクの有無における、人々が選択する避難場所の違い

「市町村指定の避難場所・避難所」と「自宅（避難しない）」は、感染症リスクの有無によって1位と2位が逆転しました。特に、「市町村指定の避難場所・避難所」は、感染症リスクの有無によって15.6ポイントもの差が発生しており、感染症流行下での避難場所・避難所を多くの人々が不安視していることがわかります。すべての人が安全に、安心して利用できるよう、感染症対策を徹底した避難所運営の確立が求められています。

特筆すべきは、自宅が危険という前提にも関わらず、“感染症のリスクがない場合”でも35.3%が「自宅（避難しない）」と回答していることです。命を守るために、自宅外避難についても一度検討いただきたいものです。

◆災害時、自宅が危険な場所であれば避難する必要があります。

感染症（新型コロナウイルス等）のリスクがない場合とある場合において、あなたが避難する場所（自宅以外は危険でないことを想定）を教えてください。（複数選択）

（数字は%、○内数字は順位）

	感染症のリスクが	
	ない場合	ある場合
市町村指定の避難場所・避難所	49.2 ^①	33.6 ^②
自宅（避難しない）	35.3 ^②	38.7 ^①
車中	14.3 ^③	18.0 ^③
ホテル等の宿泊施設	11.3 ^④	16.3 ^④
親戚宅	9.7 ^⑤	10.1 ^⑤
知人宅	4.1 ^⑥	3.9 ^⑥
その他	0.9 ^⑦	0.7 ^⑦

d. 自宅の災害危険度の把握状況

現在では様々なツールを用いて自然災害の予測や対策が可能になっています。しかし、それらを活用し、自宅の災害危険度を把握している人は僅か20.5%のみでした。

「把握している」は、年代別では20代が9.0%、30代が15.5%と低く、地域別では最高値が北海道の22.8%、最低値は中部の18.8%でした。

また、「把握している」の回答者に自宅の災害危険度を聞いたところ、平均は52.0%で、北海道は61.5%、東北は60.0%と高い数値になりました。

◆ハザードマップ等を用いて、ご自宅の災害危険度を把握されていますか。

【全体・男女別・年代別】 (％)

	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代
把握している	20.5	21.8	19.2	9.0	15.5	24.5	23.5	30.0
把握していない	79.5	78.2	80.8	91.0	84.5	75.5	76.5	70.0

【地域別】 (％)

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州
把握している	22.8	15.4	20.9	18.8	21.5	19.7	21.9
把握していない	77.2	84.6	79.1	81.2	78.5	80.3	78.1

【危険度平均：全体・地域別】 (数字は%、○内数字は順位)

全体	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州
52.0	61.5①	60.0②	56.0③	43.2⑦	44.4⑥	55.8④	47.1⑤

以上